

第374装備即応中隊燃料課、翼内燃料抜き取り移送練習 374th LRS POL Airmen Practice Wet Wing Defuel

November 15, 2019

By Senior Airman Jessica Avallone
374th Airlift Wing Public Affairs

第374装備即応中隊燃料管理小隊はこのほど、横田基地では初めて翼内燃料タンク燃料抜き取り移送訓練を行った。この訓練は、C-130Jスーパーハーキュリーズの乗員が太平洋管内のどの基地へも迅速に燃料を届けられるようにするもの。実施にあたっては、法令等の遵守、専門分野のチェック項目を満たすよう徹底を図るため、主要軍団A3/A4および空軍燃料指揮部等の複数の部隊が連携を取る。

第374装備即応中隊燃料配給監督官エミリー・ファレス軍曹は、“ウェットウイング・デフューエル”と呼ぶ作業は、翼に付着した水のことではなく、(翼内燃料タンクから素早く燃料を抜取る)高速燃料移送のことだと話す。

「これは緊急時の運用のための訓練だ。C-130Jは厳しい環境のもとに着陸し、地上で時間を掛けずに航空機のポンプを使って燃料を降ろし、またすぐに離陸する」

ファレス軍曹は、翼内燃料タンクの燃料抜き取りは、不測の事態における燃料確保のためのもう一つの手段だと述べた。

「ホームステーション(横田)でこの訓練を実施することで、乗員は十分な資格が得られ、より能力を携えてインド太平洋司令部管内を支援することができる。また、燃料関連の部署にとって練度と経験が積める機会となる」

第374装備即応中隊配給事業担当官のベニト・トラスカラー等空兵は、航空機のポンプを使用したその作業について、“航空機のエンジンを起動させたまま、航空機のポンプで燃料を降ろす”と説明し、「航空機のエンジン起動中に行うこの一連の作業は、特殊な燃料補給作戦だ。横田基地がこの特殊作戦能力を持つことで、より基地機能の向上が図れる」と加えた。

